

報 告 書

土木警察常任委員会は、令和5年6月7日（水）に、県内視察調査を実施しましたので、その概要を別紙のとおり報告します。

令和5年7月6日

福井県議会議長  
西本 正俊 様

土木警察常任委員会  
委員長 山本 建

## 土木警察常任委員会 視察調査 概要

1 視察年月日 令和5年6月7日（水）

日程は別紙のとおり

2 出席者 別紙のとおり

### 3 視察内容

(1) 南越前町令和4年8月大雨災害の復旧現場 [10:25 ~ 12:10]

あいさつの後、資料に基づき概要説明を受け、質疑応答を行った。

(質疑概要は別紙のとおり)

○あいさつ

福井県土木部 理事（土木技術） 田中 秀樹

○「鹿蒜川流域における復旧状況・災害対策説明」

説明：

丹南土木事務所 所長 小野田 利宏

○現地視察

(2) 吉野瀬川ダム[13:20 ~ 14:35]

資料に基づき概要説明を受け、質疑応答を行った。

(質疑概要は別紙のとおり)

○「吉野瀬川ダム建設事業の概要説明」

説明：

吉野瀬川ダム建設事務所 所長 高橋 義治

○現地視察

# 土木警察常任委員会 県内視察調査日程表

実施日 令和5年6月7日(水)

時 間	行 程
9 : 2 2	議事堂 発 (バス) 道の駅越前たけふ 経由
1 0 : 2 5	<b>南越前町令和4年8月大雨災害の復旧現場</b> (説明会場) 今庄住民センター (旧今庄町役場) ○あいさつ ○概要説明 ・ 鹿蒜川流域における復旧状況・災害対策 ○質疑応答  ～バスで移動～
1 2 : 1 0	○輪中堤予定地、復旧箇所等の現地視察
1 2 : 4 0	<b>昼食</b> (越前市内)
1 3 : 1 0	
1 3 : 2 0	<b>吉野瀬川ダム</b> (説明会場) 吉野瀬川ダム建設事務所 ○概要説明 ・ 吉野瀬川ダム建設事業の概要 ○質疑応答  ～バスで移動～
1 4 : 3 5	○吉野瀬川ダムの現地視察
1 5 : 2 0	道の駅越前たけふ 経由 議事堂 着 (解散)

# 土木警察常任委員会 県内視察調査出席者名簿

令和5年6月7日（火）

## 【土木警察常任委員会】

委員長	山本 建	2期
副委員長	笹原 修之	2期
委員	松田 泰典	6期
〃	細川 かをり	4期
〃	力野 豊	3期
〃	西本 恵一	3期
〃	北川 博規	2期
〃	森 嘉治	1期
〃	酒井 秀和	1期

## 【地係議員】

越前市今立郡南条郡選挙区

仲倉 典克	6期
宮本 俊	4期
斉木 武志	1期

## 【事務局】

議事調査課	主任	吉田 志織	(土木警察常任委員会書記)
	主任	櫻川 美穂	(土木警察常任委員会書記)

【 計 14名】

## 1 南越前町令和4年8月大雨災害の復旧現場

### 鹿蒜川流域における復旧状況・災害対策について

#### I 説明概要

##### ○概要

- ・気象庁の今庄観測所において、令和4年8月4日に日雨量197.5ミリメートル、5日に日雨量229.0ミリメートルと2日連続で史上最大日雨量を記録。5日8時～9時頃に記録した時間雨量74.0ミリメートルは、確率規模で70年に1回の記録的な大雨であった。
- ・鹿蒜川流域の各所で溢水・越水が発生。南今庄地区をはじめ、至るところで堤防が決壊した。家屋被害としては、床上浸水が106戸、うち全壊が5戸、半壊が39戸ということで、床下浸水の33戸と合わせて139戸の被害が出た。その他、JR北陸本線、県道今庄杉津線、町道、公共施設など、平地の大部分に浸水が確認された。
- ・応急対応により6日後には大桐集落への乗用車の通行が可能になった。決壊の防止を目的に、再度浸水があると甚大な被害が発生する可能性が大きい堤防決壊箇所および護岸崩壊箇所に、大型土のうを各所に設置している。
- ・「鹿蒜川流域防災・減災プロジェクト」は、被害が集中した鹿蒜川流域の復旧・復興を迅速かつ確実に進めるため、被災施設の復旧に加え、輪中堤等のハード整備と、迅速な避難行動につながるソフト対策について県と町が連携しながら流域全体の被害軽減を目指して一体的に進めるという方針になっている。本プロジェクトについては、治水対策に加え、砂防、治山等の復旧も一体的に実施するという計画になっている。今後は、進捗状況等の情報発信を行うことで、流域全体の防災力向上に努めていく。
- ・プロジェクトの全体事業費は約82億円。このうち県が実施する事業について、まずハード対策としては、下流から南今庄地区、下新道地区、上新道地区の3地区で合計2キロメートルの輪中堤を造る。河道拡幅については、南今庄地区で700メートルを計画。砂防施設の整備については、上流から大桐地区で2か所、上新道地区で1か所、下新道地区で1か所、二ツ屋地区で2か所の合計6か所を計画している。被災施設の復旧については、河川災害が7か所、砂防災害が11か所、道路災害が13か

所、橋梁災害が1橋となっている。

- ・ソフト対策としては、まず南今庄地区に危機管理型水位計と監視カメラを設置し、ホームページで配信している。その他、浸水害・土砂災害対応のタイムラインの作成・運用などを行うこととしている。
- ・ハード対策については、令和6年度の完成を目標として整備している。ソフト対策については、災害危険区域の指定による土地利用規制をすることで、南越前町が令和4年度に条例を制定し、令和5年4月1日から施行されている。南今庄地区の水位計と監視カメラは設置済みであり、ホームページで配信されている。浸水害・土砂災害対応のタイムラインなどの対策については、令和6年度までの運用を目指している。

## II 質疑応答

○委員 大桐地区の集落内の洪水対策について教えてほしい。

○砂防防災課長 鹿蒜川の上流域は普通河川であり県が管理する法河川区域とはなっていない。河川管理者としては南越前町が管轄するという位置付けとなっている。その中で、砂防事業としては、鹿蒜川の集落上流側に遊砂地を設け、また、大桐の集落内で合流している七重谷川に砂防堰堤を造成し、集落への土砂流入を防いでいく。これは県の通常砂防事業で実施していきたいと考えている。集落内の洪水対策だが、砂防事業で、土砂洪水による氾濫を防いでいくことが必要だと県としても認識しており、県も南越前町と一緒に、昨年度集落に入りながらしっかりと地元と意見交換している。大桐地区は、県道、河川、山に挟まれた狭隘なところに集落があり、抜本的な河川改修というものは非常に難しい地形となっているため、現在、町、県、地元の皆様で協議を重ねているという状況である。まずは砂防堰堤等により土砂を防ぐというところから計画を進めていきたいと考えている。

○委員 住民の方々から蛇行区間を何とかしてほしいと要望されているが、これは町に言うしかないということなのか。それから、基幹林道の土砂撤去は、どこの所管になるか教えてほしい。

○土木部理事（土木技術） 基幹林道の土砂撤去は、県か町かは不明だが、農林水産部の所管である。土木部ではない。蛇行区間の河川については、やはり町の所管になる。

○委員 2点伺う。まず1点、日野川と鹿蒜川の合流点について、通常、合流点は逆流を防ぐために水門を設置するようなところもあるようだが、逆流

の心配はないということなのか。もうひとつ、今庄駅の北側のところにも川があって、その流域も水がついたのだが、そのあたりの対策は全く考えていないということか。

○河川課長 合流点については、日野川と鹿蒜川では勾配が違っている。鹿蒜川のほうが急勾配であり、自己流で日野川に流れるので、水門等を設置してポンプ排水するような川ではなく、逆流はしないということである。今庄駅の北側のところの川については町が管轄しているので、対応等は町が行うことになる。

○委員 2点伺う。まず1点、ハザードマップ上はこの辺はどういう地域だったのか。もう1点、先ほど工程の説明で令和5、6年度の完成を目指すとのことであったが、資材のこともあり、厳しいところもあるのではないか。

○砂防防災課長 まず、ハザードマップについては、令和2年に県が水害リスク図というものを公表し、町でハザードマップを作成しているところである。最大規模の雨を想定したハザードマップを作成しており、おおむね想定どおりの地域で浸水しているという状況である。こうしたハザードマップは、地域の人にどこが危険かという認識をしていただくものと思っているが、全住民に周知することが難しい。町と連携し、引き続き周知に努め、ハザードマップを活用しながら防災活動を進めていきたい。

○土木部理事（土木技術） 全体の工程の話だが、輪中堤、砂防堰堤というのは基本的に用地買収が伴う。地域住民の方々に、この事業に対し理解が得られるように真摯に交渉を続けていきたいと考えている。予定としては、今年の上半期で話を終えて、下半期から工事に入っていくというスケジュールで行くと、令和6年度内の完成が目指せる。ただ、なかなか用地も難しいところがあるが、我々としては住民の方々の意思をしっかりと尊重しながら、令和6年度の完成を目指してこの工事に取り組んでいきたい。

○委員 1点、予算について伺う。通常、災害予算というと災害分を復旧するだけしかできないということだが、予算の内訳について、県の負担はどれくらいなのか。全部災害予算なのか。

○河川課長 おっしゃるとおり、災害復旧は原形復旧が原則となっているが、再度災害復旧を未然に防ぐということで、昨年、流域治水型災害復旧という制度ができた。今回、輪中堤についても、その災害復旧の工事で認めていただいているので、県の負担はわずかということになっている。

○委員　　今回、土砂の流出が非常に多い中で、人的被害がないというふうに聞いている。ソフト面での土木の持っている技術と、減災防災というところはまた所管が違うところがある。そういったところで、今後情報の共有、さつきハザードマップという話もあったが、防災部局との調整はされているのか。

○砂防防災課長　　防災部局と土木部の連携ということだが、土木部としては危険箇所などを技術的に判断し、土砂災害警戒区域などの情報を防災部局にも提供し、タイムラインの作成等についても、連携しながら進めているところである。また、水位計等の整備を進め、水位情報を提供するなど、防災部局と連携をしながら防災・安全に努めていきたい。

### Ⅲ 現地視察

- ・ 鹿蒜川沿いを移動し、復旧現場や輪中堤等の整備予定地を確認
- (※) 現場視察をしながら行った質疑応答については省略する。

## 2 吉野瀬川ダム

### 吉野瀬川ダム建設事業の概要

#### I 説明概要

##### ○概要

- ・ 県内では建設中のダム2基、管理指定のダム18基の計20基のダムがある。建設中のダムは当吉野瀬川ダムと、もう1基が国の直轄事業として足羽川ダム、この2基を現在建設している。吉野瀬川ダムは、県の最後のダムとして着実に整備を進めている。
- ・ 吉野瀬川は、全長約18キロメートルの一級河川。吉野瀬川流域では、これまで台風や大雨などによりたびたび家屋や農地が浸水するなど被害を受けてきている。こうした洪水被害を軽減し、流域住民の安全・安心を守るため、まず上流でダム、併せて下流で河川改修、この2つで吉野瀬川を整備している。ダムとしては、高さ58メートル、長さ190メートルの重力式コンクリートダムである。現在、付替の県道2路線、林道2路線を併せて整備しており、必要な用地取得も進めている。令和3年3月にダム本体工事に着手し、今年4月からいよいよダム本体のコンクリート打設を開始したところ。今年度末までにはおそらく5割程度の打設が完了する。

- ・当時吉野瀬川流域の9,650世帯、25,331人に避難勧告が発令された平成30年7月の豪雨で検証したところ、ダムが整備されている場合、約87センチメートルの水位低下が期待されるというところである。
- ・ダム工事の工程については、まず川の流れを切り替える①転流を行い、元の川の流れを乾いた状態にして②基礎掘削、掘削が終わった段階で現在施工中のダム本体の③堤体打設、水が漏れないように④基礎処理、ダムが完成した段階で、実際に水をためて水の漏れがないか、構造物に変形がないか確認する⑤試験湛水、それがすべて終わってダム供用という形になる。
- ・吉野瀬川ダムは、他県に比べ大変市街地に近いところに建設している。市街地に近い特性を生かし、ダムの工事現場を観光資源として活用し、地域活性化をダムツーリズムで後押ししている。ダムツーリズムというのは、ダム工事現場の見学を組み込んだツアーを民間の旅行会社が企画・実施するものである。我々は現場視察のときに、事業の状況等を説明するといったお手伝いをしている。令和3年秋以降、5社10ツアーが開催され、184名に参加していただいている。今年度は新たに読売旅行からも引き合いがあり、今年6月と7月に2ツアーが計画されており、145名が参加見込みである。
- ・防災教育という観点から、令和3年から出前授業を行っている。吉野瀬川流域の小学校を対象とし、ダム事務所職員が出向いて、ダムの役割と建設現場の魅力を伝えている。防災教育ならびに建設業への興味を持っていただくことが目的。
- ・情報発信としてホームページ、ユーチューブ、ツイッターを活用してダム、ひいては福井県のPRをしている。一番多いもので2万を超える再生回数の動画もある。
- ・県内20のダムのうち、16のダムでダムカードを配布している。吉野瀬川ダムは、令和3年11月から一般配布を開始し、令和5年5月17日に1,000人を達成した。これからもバージョンを変えながら作っていかうと考えている。
- ・近年、小水力発電を実施する県内事業者が増えていることから、吉野瀬川ダムの小水力発電については、民間事業者による設置・運営とすることで、昨年第三者による選定委員会を設置し、昨年10月に公募し、3者の申し出があった。審査の結果、マルツ電波、山田土木、北陸電力、安藤・間の連合体が事業候補者となっている。現在、事業実施に向け基本協定を締結するという作業をしており、協議を進めている。協定が結ばれた暁には、ダムの供用と合わせた発電開始に向け、工事に着手するという事になっている。

## Ⅱ 質疑応答

なし

## Ⅲ 現地視察

- ・ 吉野瀬川ダム建設現場に移動し、工事の進捗状況等を確認  
(※) 現場視察をしながら行った質疑応答については省略する。

## 土木警察常任委員会 県内視察

場所 今庄住民センター

内容 あいさつ (山本委員長)



あいさつ (土木部理事 (土木技術))



内容 概要説明 (鹿蒜川流域における復旧状況・災害対策)・質疑応答



現地視察の様子



場所 吉野瀬川ダム建設事務所

内容 概要説明



現地視察の様子

